

立山自然観察実習報告

◇期 日:1回目 令和6年7月20日(土)~21日(日)

2回目 令和6年7月24日(水)・8月21日(水)

◇場 所:富山県立山カルデラ砂防博物館、美女平・室堂(富山県中新川郡立山町)・高志の国文学館庭園ほか

◇参加者:1年探究科学科生徒80名 富山県ナチュラリスト協会・富山県天文学会の先生方 本校教員

7月20日から21日にかけて、15H・16Hの探究科学科生徒40名は1回目の立山実習に行ってきました。1日目は立山カルデラ砂防博物館の見学、美女平の植生調査、天体観測、2日目は室堂の植生調査と常願寺川の大転石の調査を行いました。どちらの日も、普段は見ることのできない植物や地形を見ることができ、とても貴重な体験となりました。

立山カルデラ砂防博物館では、常願寺川が今の様子から想像できないほどの暴れ川だったという過去とそれに伴う被害、また立山カルデラについて学びました。地震で大きな山が崩れるということにも驚きましたし、ピンポン玉を雪崩に見立てた雪崩実験は、見ていただけでも勢いがすさまじく、改めて自然への畏怖を感じました。堤防を作るなど昔の人々のたくさんの努力と、今現在も砂防工事を行っている人がいるからこそ私たちは安全に暮らすことができていると知り、防災の重要性を感じることができました。



美女平では、山の中を歩きながらの植生調査を行いました。事前に学習した植物を見分けられた時はうれしかったし、今までにない経験で、とても楽しく活動することができました。特に、群度と被度を測る実習では、植物と群度の関係性の予想が正しいことがわかるなど、実りある時間となりました。

天体観測では、天文学会の先生のお話を聞きながら、たくさんの種類の星を観察しました。望遠鏡から見える星の写真を端末に映して、肉眼では見ることができない星や小中学校で習った北斗七星やいくつかの星座をはっきりと見ることができました。遠い星のことはなかなかイメージしにくいですが、今回じっくりと観察したことで、天体への興味が強まりました。



室堂では、珍しい植物やきれいな景色を見ることができました。また、ナチュラリストの方からライチョウについて伺い、あれほど広大な地に300羽ほどのライチョウしか生息していないということを知りました。とても衝撃を受けるとともに、改めてライチョウの保護の必要性を感じました。また、植物の観察でもナチュラリストの方の説明を聞きながら観察することで、より植物への理解を深めることができました。事前に学習した植物も多く見ることができ、より植物への関心が高まったと思います。



今回、私たちがたくさんの方を経験し、学ぶことができるように、たくさんの方々が忙しい中関わり、準備してくださいました。そのおかげで私たちは無事に貴重な体験をさせていただくことができました。特にナチュラリストの方々やバスの運転手さん、先生方には2日間にわたって多くのことを教えていただきました。関わってくださったすべての方々に感謝して、この2日間で得た学びを今後生かし、これからさらに深く探究活動を行えるよう励んでいきたいと思っています。

7月24日に15H・16Hの探究科学科生徒40名は2回目の立山実習に出発しました。ところが大雨による道路事情の悪化により、常願寺川の大転石の調査と立山カルデラ砂防博物館の見学の後、実習が中止となってしまいました。

しかし探究教育部の先生方により、立山実習の植生調査の代わりに「万葉の庭で植生調査～平地に出現する富山の山～」というテーマで代替行事の企画がありました。

学校の近くの高志の国文学館にある「万葉の庭」は、富山県知事の要望によって、富山県の山の植生を再現したものになっています。例えば、『万葉集』に詠まれたカタクリ(カタカゴ)や、コナラ(ハハソ)などが植栽されています。

調査の概形は次のようなものでした。

- ① 調査地として20m×20mの方形区を設定する。
- ② 各階層の植物の高さ(群落高)・植被率(各層のすべての植物が方形区内を占める割合)を調べる。
- ③ 各階層の植物名を調べる。また、その植物の被度(方形区内で葉がどれだけの面積を占めているか)・群度(どんな配分の状態を示しているか)を目測して、植生調査表に記入する。

参加者からは、弥陀ヶ原などの標高の高いところでの植生調査はできなかったものの、身近な場所で富山の自然を体験することができたので、有意義だったという感想や、植物によって特徴が様々で富山県の山のことについて詳しく知るいい機会となったという意見が聞かれました。

